

DGT 15 サービスノート

修理の際は、必ず購入されたPRS Official ディーラー経由で当社にご依頼ください。

Tubes - 真空管

真空管は使用頻度や使用方法によって寿命が異なりますが、消耗品です。真空管はサウンドの要となるパーツであり、正しい使用方法をしても、長期間使用することで動作不良を起こすことがあります。そのため、不具合が起きた際の対処法を事前に把握しておくといでしょう。

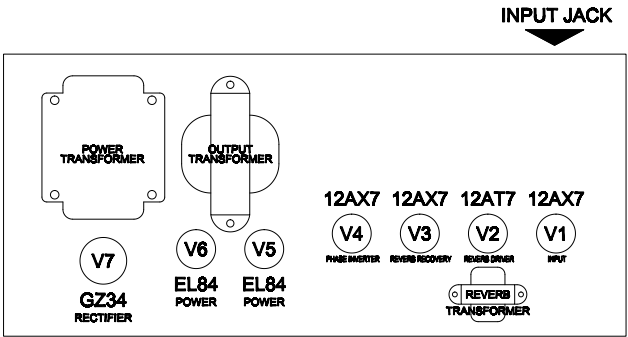
定期的な点検として、真空管のフィラメントがオレンジ色に発光しているか確認してください。オレンジ色以外の発光がある場合、真空管に異常が発生している可能性があります。特に、真空管に過剰な電流が流れると、フィラメントが鮮紅色に発光することがあり、これは内部で異常が起きていることを意味します。

また、以下のようなシチュエーションも考えられます。

- 1)フィラメントが光っていない。
- 2)真空管内部で小さな火花が見える。

これらの状態は、真空管に深刻な問題があることを示しているため、すぐに使用を中止し、原因を確認する必要があります。アンプから発するノイズは真空管が原因であることが多く、特にプリ管はスピーカーキャビネットの振動によってノイズを発生させる場合があります。DGT 15ではセルフバイアス方式を採用しているため、パワー管交換時にバイアス調整は不要です。しかし、真空管交換時には、以下の真空管配置図を確認し、必ず同じモデルを指定された位置に取り付けてください。交換後は、パワー管が正常に動作しているか、フィラメントが鮮紅色に発光していないか確認してください。さらに、本製品にはバイアス端子が搭載されており、これを使ってパワー管のバイアス値を確認することが可能です。メーターをミリボルトに設定し、バイアス値を確認してください。チューブの個体差もありますが、適切な値は±35mVとなります。

- 注意！：内部回路やパーツの損傷、アンプ本体の故障につながるため、真空管を抜いた状態では、絶対にアンプの電源を入れないでください。
- 注意！：電源をオフにし、ケーブルを抜いた後でも、コンデンサー内部には電気が滞留している場合がありますので、十分ご注意ください。



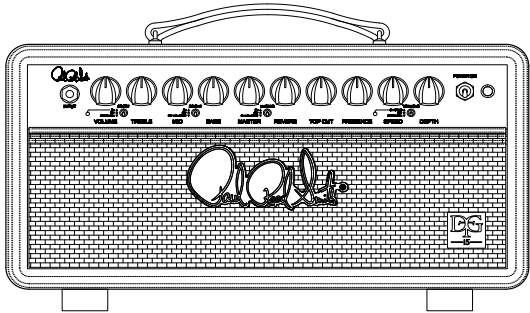
DGT 15 TUBE LAYOUT

製品に関するお問い合わせ
Paul Reed Smith Guitars カスタマーサービス
support@prsguitars.co.jp

2024年10月作成



DGT 15
USER'S MANUAL



PRSアンプの使用について

DGT 15をお買い上げいただきありがとうございます。アンプを安全に使用するため、本書をよくお読みください。本書をよく読むことは、多くの機能を十分理解してアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

- 1. スピーカーキャビネットがヘッド・アンプのスピーカー・アウトと高品質なスピーカー・ケーブルで接続されていることをご確認ください。楽器用シールド・ケーブルは使用しないでください。
- 2. 電源ケーブルがアースに繋がっているコンセントに接続されていることをご確認ください。
- 3. アンプの熱を逃がすため、少なくとも周囲15cm以内には物を置かず、スペースを確保してください。アンプを壁際に設置したり、他の機材と隙間なく設置しないようにしてください。また、他のアンプやストーブといった熱源の近くに設置しないでください。アンプの後ろにはカーテンなど可燃性のものを置かないようにしてください。アンプの放熱を妨げるようなもので覆わないでください。また、ドリンクや液体をアンプ上部に置かないでください。
- 4. 本製品はスタンバイスイッチを搭載せず、電源スイッチのみでアンプの主電源が入り、演奏が可能な設計となっています。アンプの音をミュートしたい場合は、インプットジャックに接続されているケーブルを、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。
- 5. 本製品の使用に慣れるまで、アンプをギターまたはペダルのアウトプットジャックと接続する際は、必ずボリュームとマスターコントロールを0にし、接続完了後に電源を入れてください。また、突然大きな音量が出ることを避けるために、ボリュームが0の状態から少しずつ上げて調整してください。

本製品は大音量での演奏が可能ですが、長時間の演奏は聴覚に影響を与える可能性がありますので、ご使用はあくまでご自身の責任の範囲内で行ってください。また、本製品に異常を感じた場合は、直ちに使用を中止し、購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。PRS Official ディーラー以外で修理や改造が行われた場合、今後のサービスの対象外となりますので、予めご了承ください。本製品を使用する際は、必ず100Vの電源をご使用ください。

DGT 15 フロントパネルコントロール

Input - インプット

モノラル仕様のギター・ケーブルを使用して接続してください。

Volume - ボリューム

ブリアンプに送るギターのレベルを調整します。マスター・ボリュームがオフの場合、このノブでアンプの音量を調整し、上げるにつれてプリ・アンプおよびパワー・アンプでの歪みが増します。また、マスター・ボリュームがオンの場合、低音量でもブリアンプでの歪みを生み出すことができます。

Boost - ブースト

フロント・パネル上に搭載されたスイッチで「オン」、「オフ」、または「フットスイッチでの操作」を選択します。LEDが本スイッチの選択されている状態の箇所で点灯します。歪みの量を増やし、クリーンと歪みの中間のパンチのあるサウンド狙ったフルレンジのブリアンプ・ブーストとして使用できます。ブライト・スイッチおよびマスター・ヴォリュームのスイッチと連動しています。

Treble-Mid-Bass Controls - トレブル・ミッド・ベース・コントロール

高音域、中音域、低音域を個別に調整します。

Bright - ブライト・スイッチ

フロント・パネル上に搭載されたスイッチで「オン」、「オフ」、または「フットスイッチでの操作」を選択します。このスイッチをオンにすると高音域に煌びやかさが加わりますが、ブースト・スイッチがオフの場合にのみオンにすることができます。

Master and Master (activation) switch - マスター & マスター・スイッチ

マスター・スイッチがオンの場合、マスター・ノブでアンプの全体のボリュームを調整できます。ボリューム・ノブと組み合わせて、ブリアンプの歪み具合を調整します。マスター・スイッチは「オン」、「オフ」、または「ブースト時にオン」から選択でき、「ブースト時に（マスター・ボリュームを）オン」にすると、ブーストした時とブーストを外した時のゲインのレベル差を調整することができます。

Reverb - リヴァーブ

リヴァーブのレベルを調整します。

Top Cut - トップカット

位相反転後のサウンドに対して位相キャンセルを利用して、高音域を調整します。

Presence - プレゼンス

パワー・アンプのネガティブ・フィードバックをコントロールし、高音域のゲインを増加させるトレブル・ブーストです。

Tremolo - トレモロ

パワー管のバイアス値を変化させることで、トレモロ効果を生み出します。

• Speed - スピード

トレモロ・エフェクトのスピードを調整します。時計回りに回すほど早くなります。

• Depth - デプス

トレモロ・エフェクトの幅を調整します。ノブを回し切った状態から弾き始めるとパワー管で歪みが生じる可能性があるため、低めの設定から始めて、徐々に上げながら調整することをおすすめします。

• Tremolo switch - トレモロ・スイッチ

フロントパネル上にあるスイッチで、「オン/スピード」、「オフ」、または「フットスイッチでの操作」を選択します。トレモロがオンになると、スピードノブの設定に連動してLEDが点灯します。

Power On - 電源スイッチ

アンプの電源を入れる際、スイッチを上ポジションにします。数秒後かけて整流管（GZ34）が温まり、真空管への電圧を供給し始めます。回路に電圧が供給されている場合、隣のインジケータが点灯します。

DGT 15 リアパネルコントロール

Power Inlet Socket - 電源ソケット

本製品を使用する際は、必ず付属の電源コードをご使用ください。また、本製品を移動させる際は、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）全て外してから行ってください。

Fuses - ヒューズ

本製品には、リアパネルから簡単にアクセスできるヒューズと、できないヒューズがあります。ヒューズの交換時には、必ずヒューズ本体に記載されている仕様と同じものを使用してください。異なるヒューズを使用すると、製品に致命的な損傷が生じ、思わぬ事故につながる可能性があります。また、ヒューズ交換時には、必ず電源ケーブルおよび他の接続機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

• Mains/Power Inlet Fuses - メイン/電源ヒューズ

メインヒューズ用トレイは、主電源ソケット・モジュール内に組み込まれています。このソケット・トレイには2つのヒューズをセットでき、1つはスペア用です。ヒューズのタイプやスペックは、使用する国や地域によって異なるため、主電源ソケット・モジュール下の記載内容をご確認ください。

• B+ Fuse - B+ヒューズ

B+/H.T.ヒューズは、Power Inlet Socket（パワーインレットソケット）横のリアパネルからアクセスできます。このヒューズ交換時には、必ず事前に購入されたPRS Official ディーラーに、交換するヒューズが正しいかをご確認ください。ヒューズ交換作業に不安がある場合は、必ず購入されたPRS Official ディーラーにご相談ください。

• Filament Fuses - フィラメント・ヒューズ

フィラメントヒューズは回路上にあるため、交換時には必ず購入されたPRS Official ディーラーにご相談ください。

Speaker Jacks - スピーカー・ジャック

スピーカー・キャビネットへの出力/接続用ジャックです。本製品には3つのジャックが搭載されており、アンプのリアパネル左側と中央に並列接続されたジャック（4オームまたは8オームの切替可能）、および右側に1つの16オームジャックがあります。使用前にスピーカーの合計インピーダンスを確認し、適切なジャックを使用してください。

2台の16オーム・キャビネットを並列で接続する場合（8オームのインピーダンス）は、オーム・セレクター・スイッチを8オームに設定し、それぞれのキャビネットを左側と中央のジャックに接続します。2台の8オーム・キャビネットを接続する場合（4オームのインピーダンス）は、オーム・セレクター・スイッチを4オームに設定します。

1台の4オーム・キャビネットを使用する場合は、左側または中央のジャックに接続し、セレクター・スイッチを4オームに設定します。1台の8オーム・キャビネットを使用する場合も同様で、左側または中央のジャックに接続し、セレクター・スイッチを8オームに設定します。

16オーム・キャビネットを使用する場合は、右側の16オーム・ジャックを使用します。スピーカーのインピーダンスとアンプ側の出力ジャックが一致していないと、真空管ソケットやパワー管の損傷、アンプの故障が発生する可能性があります。16オーム・ジャックと8オーム・ジャックを同時に使用することは絶対におやめください。思わぬ故障やトラブルの原因となります。

Bias Jacks - バイアス端子

パワー管の消費電流をミリボルト単位で測定する端子です。本製品はセルフバイアス方式を採用しているため、バイアス値の調整はできません。V5およびV6と表示された端子が各パワー管に対応しています。1mVと測定された場合、そのパワー管には1mAの電流が流れていることになります。中央のバイアス端子がグラウンドであり、測定時にはテスターの黒いリード棒（COM端子も接続）をこの端子に接続します。バイアス端子で計測することで、真空管の故障（バイアス値が0）や、他のチューブと比較し、規定値から外れているかを確認できます。

不具合を確認した場合は、同じモデル・同じ数値の真空管に交換し、正常に動作するか確認してください。真空管が1本故障した場合、ペアでの交換を推奨します。真空管の交換作業は、ご自身で行うと予期せぬトラブルにつながる可能性があるため、必ず購入されたPRS Official ディーラーにご相談ください。

Footswitch Jack - フットスイッチ・ジャック

5ピンDINメス・ジャックです。使用する際は、必ずPRS純正フットスイッチ「PRS FS3B5D-DGT 15フットスイッチ」をご使用ください。このフットスイッチで、ブースト、リヴァーブ、トレモロをコントロールできます。